

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	明野町立上野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	33	27	30	31	27	23	4	175	

研究の概要

1. 研究主題

児童一人一人に確かな学力を身に付ける指導の在り方
 - 算数科における個に応じた指導方法の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

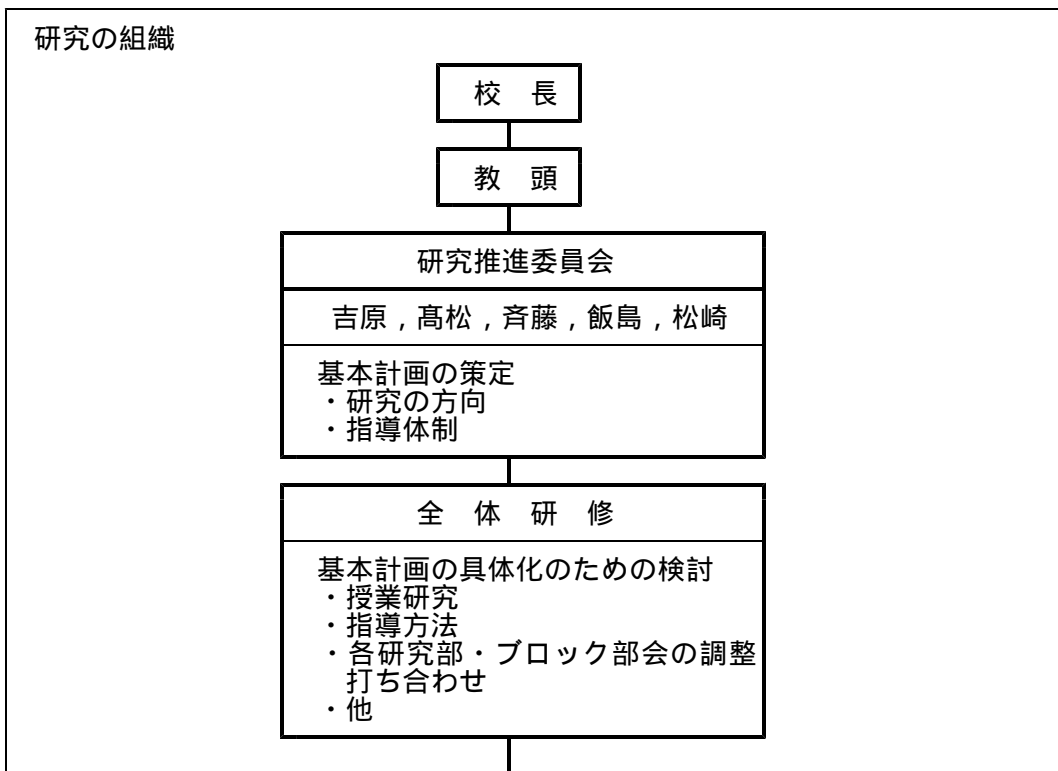
・全学年・算数
 学習の習熟に対する児童の個人差が大きく、基礎的・基本的な内容が確実に定着していないという実態から、個に応じた指導の充実を図り、主体的に学力を育て、確かな学力の向上につなげていきたいと考えたため。
 学校として、平成14・15年度に町教育研究会の指定を受け、当該教科に関する研究を続けているため。

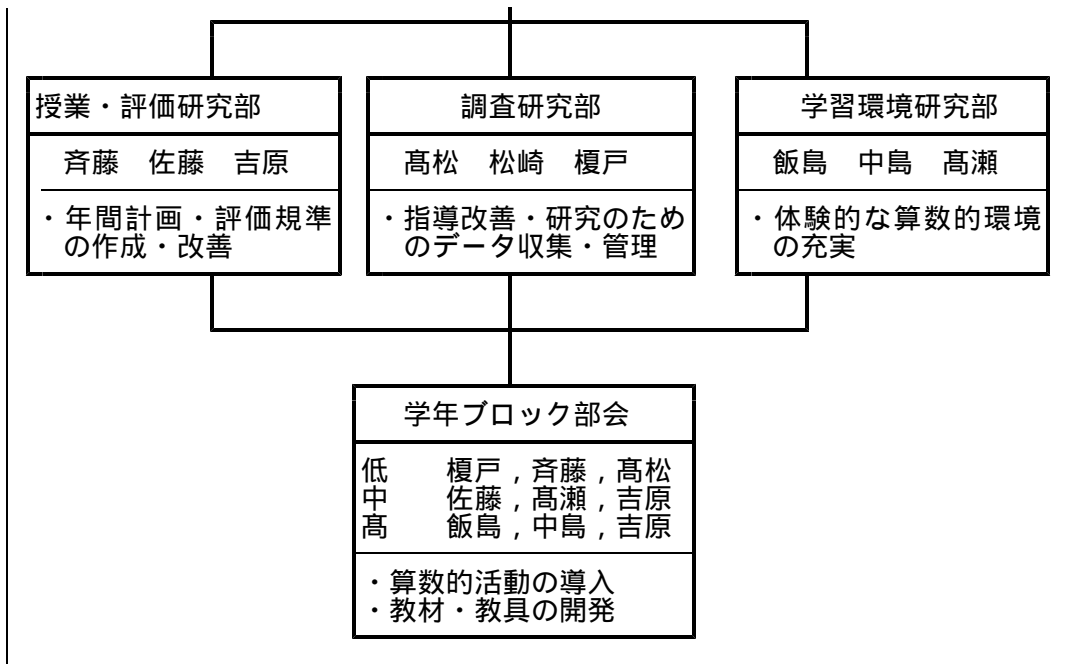
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 研究の土台を作り基礎を固める。 ねらいや児童の実態を基に研究の方向及び方法を決定し、実践を通してデータを収集する。</p> <p>研究の見直し ・研究の体制作り ・研究のための資料の収集 ・個に応じた指導のための教材作り ・個に応じた指導のための指導体制作り ・年間計画・評価規準の作成 ・1年目の児童の学力等の調査 ・成果の普及方法の検討</p> <p>研究の内容・方法 (1)算数的活動を学習の中に積極的に取り入れていく ・指導計画に算数的活動を位置づける ・体験的な算数的環境の充実を図る (2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 ・一人一人の習熟度に応じた教材の開発をする (3) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・個に応じた指導のための多様な指導方法や形態の工夫をする ア ティームティーチングでの効果的な指導 イ 少人数指導(習熟度別・課題選択別等)の実施 ・幼・小・中の連携 ・家庭との連携 (4) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善 ・プレテストを実施し活用する ・自己評価の方法の工夫をする ・自己評価力と相互評価力を育てる ・補助簿の工夫をする ・年間指導計画・評価規準の見直しをする。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 研究の充実，深化とまとめ 15年度の実践をもとに成果の活用をはかるとともに，課題の解決を通して児童の学力のいっそうの向上を図るとともに，成果をまとめ，その普及をする。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究のための資料の収集と整理 ・個に応じた指導のための教材の作りと活用を通じた改善 ・個に応じた指導のための指導体制の実践を通じた改善 ・年間計画・評価規準の実践を通じた見直しと改善 ・研究の成果をまとめる ・研究の成果の普及のための活動 <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 算数的活動を学習の中に積極的に取り入れていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に位置づけた算数的活動の実践を通しての見直しと改善 ・体験的な算数的環境の充実を図る <p>(2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の習熟度に応じた教材の開発をする。 ・開発した教材について，活用を通して内容や使用法の見直しをする <p>(3) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導のための多様な指導方法や形態の工夫を実践を通して見直し改善をする ア ティームティーチングでの効果的な指導 イ 少人数指導（習熟度別・課題選択別等）の実施と検討・改善 ・幼・小・中の連携具体化 ・家庭との連携の強化 <p>(4) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレテストを活用した学習指導の展開 ・自己評価力と相互評価力を育てる ・評価のスパンに応じた発展的学習・補充的学習の仕組み作り ・15年度の学力の評価をもとに，年間指導計画・評価規準を見直し，改善をする
--------	--

(3) 研究推進体制

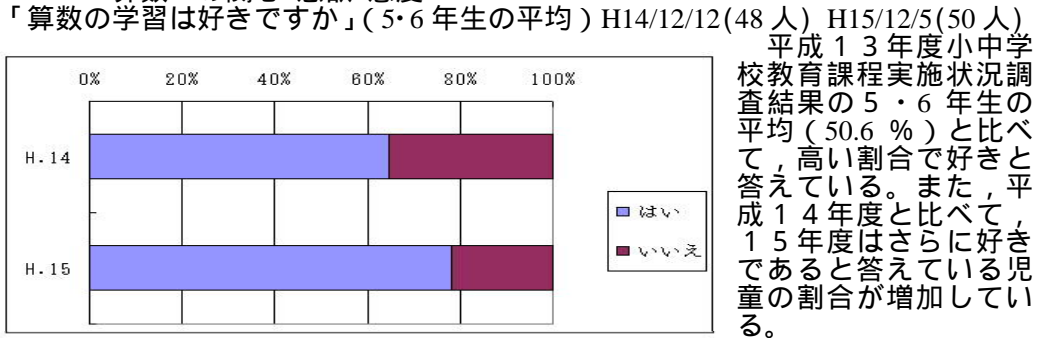




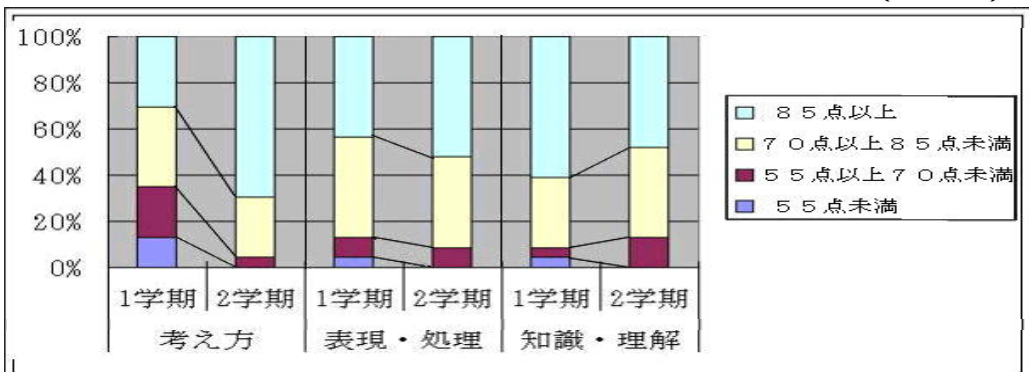
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 児童の変容
 算数への関心・意欲・態度



学習内容の定着状況
 平成15年度 6年生における単元末の評価の平均点数分布(23人)



複数の指導者による、個に応じたきめ細かな指導によって、基本的な事項がよく定着するようになってきた。...3観点全てにおいて55点未満の児童がなくなった。

複数の指導者によって、少人数指導が可能になり、2学期は特に数学的な考え方の補充・定着・発展の学習に力を入れた、具体的な操作活動を取

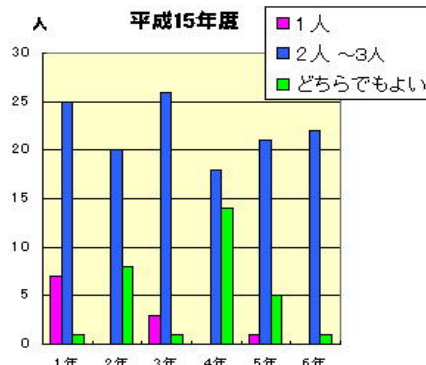
り入れたりしたことによって、数学的な考え方の力が伸びてきた。

指導方法・指導体制について

「先生の数人は1人と2～3人のどちらがよいですか」

平成 14 年 12 月 12 日

平成 15 年 12 月 5 日



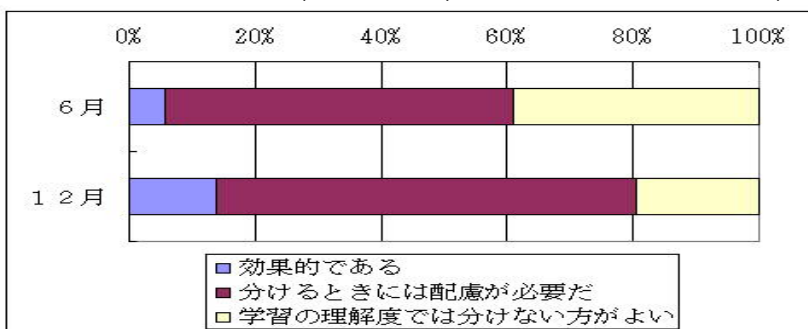
同じ児童の1年後の変化を追ってみると、各学年とも「1人がよい」と「どちらでもよい」と答えた児童が減り、「2～3人がよい」と答えた児童が増加している。TT、少人数指導のよさを感じていることがわかる。

(2) 保護者への意識調査を生かした評価結果

「学習の理解の程度によって学級を分けることについてどうお考えですか。」

平成 15 年 6 月 30 日(108 名回収)

平成 15 年 12 月 5 日(110 名回収)



6月の時点で、効果的であるという回答はわずかであり、行わない方がよいと考えている保護者が多くいた。

その理由を見ると、「差が開いてしまう。」「いじめ

につながる。」等の、クラス分けによって児童の間に「できる子・できない子」といったラベリングがされてしまうことへの不安が大きかった。それは、各学年単学級であり6年間同じクラスで学習をするという本校の実態からすれば、もっとも配慮しなければならない点である。

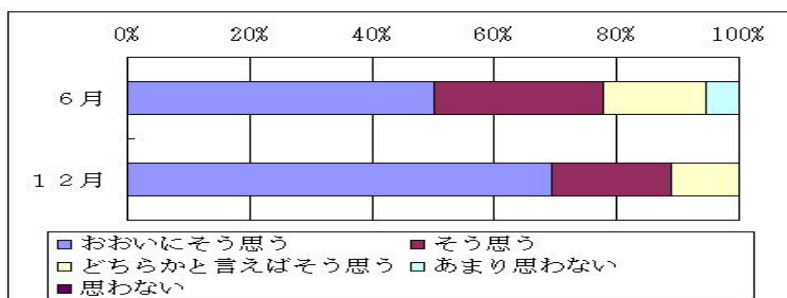
そこで、本校としては、分けることは、差を広げるものではなく、一人一人に基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるための手立てであること。そして、集団は固定化するものではないということを学力の向上等の児童の変容を通して理解してもらおうとともに、児童の実際の学習の様子を見てもらったり、各種たよりやホームページ等で知らせるように努めた。

その結果、徐々にではあるが、習熟度別学習への理解も得られてきている。

「今後も算数での複数の担当者による授業を行ってほしいですか。」

平成 15 年 6 月 30 日(108 名回収)

平成 15 年 12 月 5 日(110 名回収)



この項目では、6月よりさらに積極的に支持する回答が多くなっている。複数の指導者による学習の効果を保護者が実感してくれているものと思われる。

- (3) 教材開発の状況
- プリント教材
 - 段階的に学習が進められるようした練習問題
 - それぞれのコースや課題に応じたワークシート
 - 学習の手がかりとなる補助プリント
 - 既習事項に関する復習シート・ヒントカード
 - 具体的に操作できる教具
 - パソコンソフト
 - 児童の学習の状況によってコースが選択できる複線の教材
 - アニメーション等により視覚的に理解を助ける補充的教材
 - 開発した教材を共有できるような仕組みづくり

2. 今後の課題

発展的な学習・補充的な学習のための問題や指導資料を集積し、活用できるようにするとともに、活用を通して見直しをしながらよりよいものにしていきたい。

年間指導計画に少人数指導などの学習計画を位置づけるとともに、見直しをしてよりよいものにしていきたい。

より効果的な、幼・小・中の連携の在り方について、研究して実践していきたい。

研究成果の客観性を高めるためのデータの数値化の工夫をしていきたい。

研究成果の効果的な普及の方法について検討・改善していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

児童・保護者への意識調査

目的 ・学校教育に関する児童・保護者の意識を調査し、学習指導改善の資料とする。

調査内容 ・児童の学習への関心や満足度
 ・学習内容に対する理解の程度に関する自己認識
 ・保護者の児童の学習に対する満足度等

方法 ・質問紙法

調査対象 ・全児童及びその保護者

実施時期 ・6・12月

県「学力診断のためのテスト」

目的 ・前年度の学習に関する内容の定着について把握し、学習指導改善の資料とする。

実施教科 ・国・社・算・理

方法 ・ペーパーテスト

調査対象 ・4年生以上の児童

実施時期 ・4月

到達度テスト

目的 ・当該学年の学習内容の定着について把握し補充学習等の資料とする。

実施教科 ・国・社・算・理

方法 ・ペーパーテスト

調査対象 ・全児童

実施時期 ・2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）
- 1 中間発表会
- 期日 平成15年11月12日(水)
- 場所 本校
- 内容 授業公開 研究発表
- 対象 近隣小中学校教職員，町教育委員会，学校評議委員
- 目的 研究成果を普及するとともに今後の取り組みについての資料を得る

- 2 2年次発表会
 期日 平成16年10月22日(金) (予定)
 場所 本校
 内容 授業公開 研究発表
 対象 近隣小中学校教職員, 本校児童保護者, 町教育委員会, 学校評議委員
 目的 研究成果を普及する
- 3 P T A 授業参観時の公開 (随時)
- 4 P T A 総会席上での事業についての説明及び質疑応答 (予定)
- * 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績及び今後の予定
- 1 HPの作成－研究の内容, 学習の様子等を掲載
 - 2 研究のあゆみを町で合同で作成し中間発表会時に配布及び随時要請に応じて提供
 - 3 学校便り, 学級通信に事業の説明や学習の様子を掲載
- * フロントアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定
- 1 県の発展的・補足的教材事例集の作成に参加
 - 2 学習通信「まなび」を発行し事業の趣旨や学習の様子などを紹介
 - 3 中間発表会時に研究の取り組みや中間のまとめ等を発表
 - 4 P T A 総会席上での事業についての説明及び質疑応答 (予定)
 - 5 P T A 授業参観時の公開 (随時)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無